

児童自立生活援助事業 なごみハウス圓

平成 28 年度 事業報告

入所前の子どもに対しては児童相談所をお願いをして知能検査などを行ってもらい、その結果を元に子どもの特性を説明してもらうようお願いしました。入所している子どもに関しては、なごみハウス圓（以下は圓）での生活を通して心配事などがあれば児童相談所に相談し、改めて心理検査やカウンセリングを行ってもらい、子どもにとってより良い支援になるように心掛けてきました。また、研修などに参加し、発達障害や知的障害などの子どもとの関わり方を勉強し日々の支援に活かせるようにしました。

圓の職員研修「関係機関との連携を考える」として、かがわ若者サポートステーションに依頼し、サポートステーションの仕組みについて、所長が圓に来園し講義をおこなって頂きました。圓を知ってもらうのと同時に今後の就労支援の連携をお願いしました。

昨年度より香川県自立援助ホーム連絡会が実施され、積極的に参加し、情報交換などを行い、他の自立援助ホームとの関係を密にしてきました全国的にみても自立援助ホームでは、職員数の関係で1人勤務が当然の状態になっているのが現状です。圓でも、宿直業務を非常勤職員をお願いしています。非常勤の宿直業務中に職員として不適切な指導が行われていたことが、退園者の報告により発覚しました。その職員は既に退職していましたが、児童相談所・所轄庁の香川県子育て支援課に報告しました。児童相談所と相談したうえ、万全なる配慮をした上、関係する入所している子どもに聞き取りを行いました。その聞き取りから今後の支援を検討した上で現在取り組んでいます。

改善策として、非常勤職員も職員会議への参加や研修の受講など、子どもとの関わり方や処遇における判断の基準等を学び資質向上につながる機会を設け、適切な判断が行えるように努めています。また引継の時間を有効に活用し、支援の中で困っていることなどを聞きながら他の職員との支援とずれていないかなどを確認するなど、報連相を徹底した上で職員間の関係性を密にしています。

あたりまえの生活を提供する中で、美味しく感じる食環境については、献立に子ども達の育った地方の郷土料理や子どものリクエストを聞き入れました。また皆で食卓テーブルを囲んで職場の出来事や何げない話題の弾む楽しく心地よい食卓になるよう取り組んでいますが、ネグレクト等であたりまえの生活経験をしてこなかった子どもにとっては、受け入れるのに時間がかかりそうでしたが、楽しい団欒の場を提供できるように継続して取り組んできました。

住環境については、清潔感のある、くつろいで暮らしやすい環境になるよう清掃に取り組んできました。特に共同で使用する玄関・食堂・リビング・トイレ、浴室など、なんとなく落ち着く癒される空間になるよう、情緒・情操が育まれるように花や緑を飾り、リビングには誕生日会などの楽しい行事の写真を掲示しました。入所希望者子どもの見学時用に行事を含んだ圓のアルバムも作成しました。